

科研費を基軸とした『持続的な研究活動』の共創

田上 款、稲石 奈津子、橋爪 寛、関 二郎（京都大学 学術研究支援室 (KURA)）

要旨

科研費は研究者の研究基盤、そして日本の基礎学術を支える研究費である。「科研費を見る」ことは、URAが研究者と向きあい研究現場の課題を発見するための有効なツールである。京都大学の学術研究支援室では「科研費申請書の教科書の発行」や「研究計画調書のブラッシュアップ」など研究者の視点にたった多彩な科研費獲得推進メニューを展開している。計画調書のブラッシュアップを通してURAが研究者に提供を目指す価値は、単なる採択率の向上ではなく、中長期的な研究推進への貢献である。このために求められる力は「申請書を通して研究者と研究の話をする能力」であり、URAはこの能力の研鑽に務める必要がある。

本ポスターでは、京大の学術研究支援室が実施してきたこれまでの科研費獲得推進メニューを振り返り、科研費を基軸として『持続的な研究活動』を研究者と共創するために、URAが目指すべきことを議論する。

研究者へのアプローチ



計画調書・ブラッシュアップの実績

科研費・採択数

	科研費・採択数/申請数 (採択率)				
	H23	H24	H25	H26	H27
全学	311/713 (44%)	745/1669 (45%)	927/2328 (40%)	1028/2614 (39%)	1016/2935 (35%)
名誉教授*	20/60 (33%)	30/81 (37%)	24/88 (27%)	28/107 (26%)	36/92 (39%)
URA**			73/145 (50%)	70/162 (43%)	113/272 (42%)
	若手A, B	若手A, B, 基礎C			
			全種目 (H29の名誉教授は一部種目制限あり)		

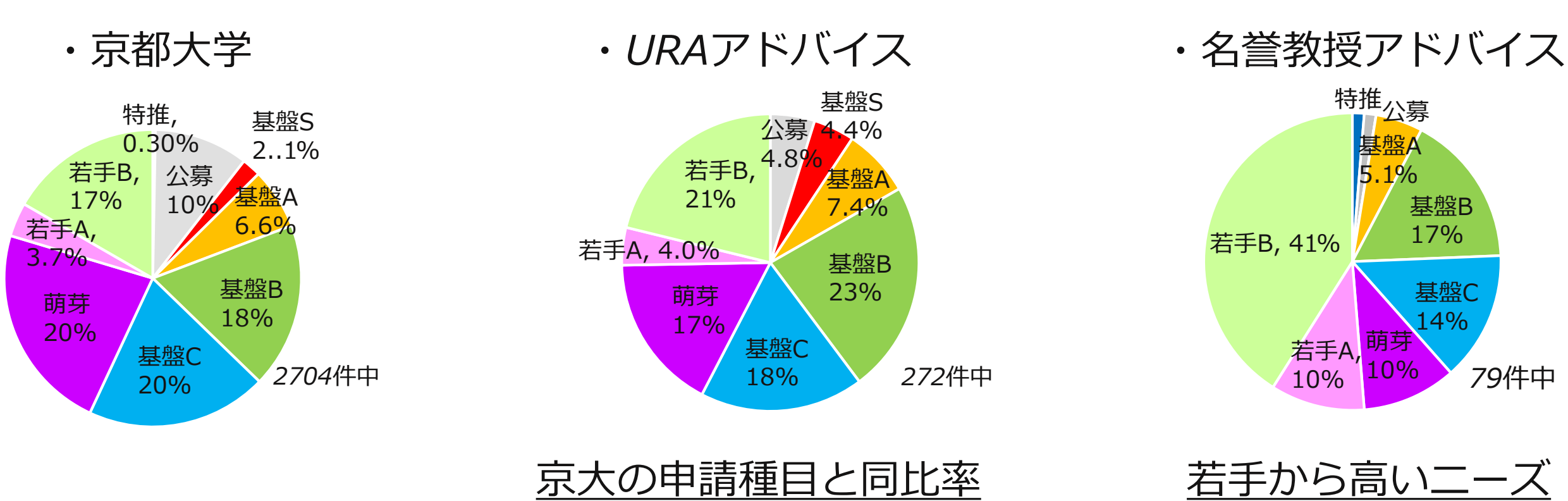
*京大・名誉教授が専門的視点からアドバイスを実施 **京大・URAが審査の観点からアドバイスを実施
†転入、転出等により一部のデータは異なる可能性がある

研究者を知る最良の機会

研究者と継続的な信頼関係を構築

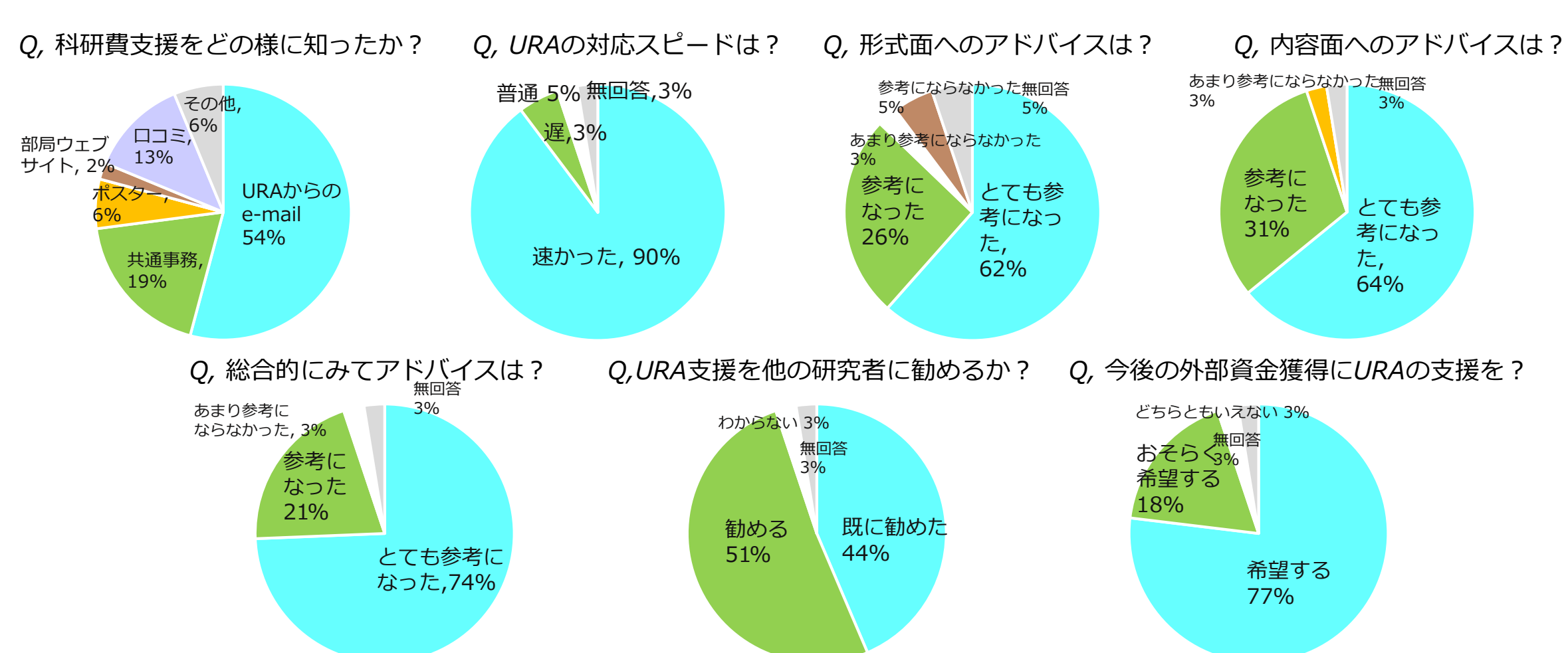
URAアドバイスにより採択率が向上(したかもしれない)

種目別の依頼割合 (H28)



URAには学内の幅広い研究者層からのニーズ

研究者からのフィードバック(H28)



研究内容面へのアドバイスにも高い評価

持続的な研究活動に向けて

科研費 ブラッシュアップ KAKENHI Brush Up!!

面談やメールによるアドバイス
研究者とURAのディスカッション
URA同士のディスカッション

採択数・率の向上
研究者との信頼関係
研究の理解



外部資金: NEDO 各種共同研究 相談・提案・出願
具体例: SATREPS... 出資事業案件
不採択案件からも次へ

今後の課題と展望

- ・プロアクティブな研究プロモーション
“生きた”研究者情報の蓄積
科研費IR (特に大型科研費)
共同研究、特許の提案 → 戦略的な資金獲得
- ・ブラッシュアップスキルの可視化
個人ノウハウの收拾・蓄積
“URAのための科研費の教科書”の作成
- ・研究現場の課題発見
研究者とのディスカッションから見える
現場課題の発見
→ 研究環境の最適化